


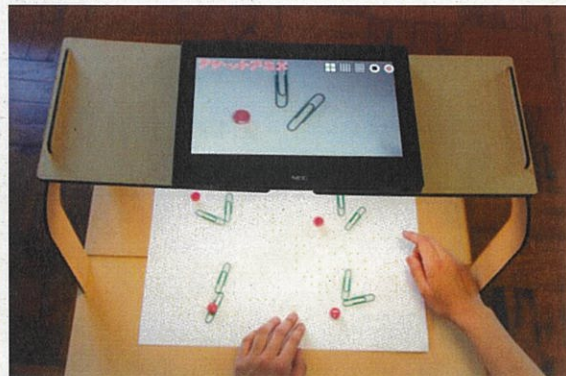
報道資料

令和4年10月14日

1 件 名	～やまぐち子ども未来型学習プロジェクト～ 「アニメーション壁画 うご板 (いた)」 in 宮野中文化祭
2 日 時	令和4年10月22日 (土) 10:00～11:05
3 場 所	山口市立宮野中学校 (山口市桜島四丁目9-1)
4 内 容	<p>本市教育委員会とYCAMが連携した先進教育プロジェクト「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト(※1)」の1つに、山口市立宮野中学校で実施する「文化祭でのICT活用(※2)」の取組があります。この度、同校文化祭において、生徒が1人1台のタブレット端末を活用してアニメーションを制作するプログラム「アニメーション壁画うご板」を公開します。</p> <p>令和2年度の「GIGAスクール構想」の加速化により、児童生徒一人ひとりにタブレット端末が配付されるなど、教育現場において、ICTを効果的に活用した授業や情報活用能力の育成に向けた授業の展開が強く求められている中、本プロジェクトは全国的にも先進的な取組です。会場には、「うご板 (いた)」の他、タブレット端末1台と机1台さえあれば、どこでもアニメーション制作が可能となる、独自開発した「教材キット」も展示しています。</p>



「うご板 (いた)」



独自開発した「教材キット」

【日程】 9:40～10:00 ①報道関係者受付
10:00～10:20 ②「アニメーション壁画うご板」について
秋田公立美術大学 准教授 萩原 健一 氏
YCAMスタッフ 等
10:20～10:50 ③会場準備等
10:50～11:05 ④「アニメーション壁画うご板」公開



山口市

(※1) やまぐち子ども未来型学習プロジェクト

市教育委員会とYCAMが連携し、山口の子どもたちに、ICT機器の操作方法や情報（メディア）リテラシーの習得を働きかけるとともに、情報を分かりやすく発信・伝達する能力やプログラミング的思考、情報モラルなどの情報活用能力を育み、これからの山口を担う人材の育成をめざす。

(※2) 文化祭でのICT活用

「アニメーション壁画うご板」を制作する過程で、生徒自身の発想力、創造力、論理的思考能力を育成するとともに、Chromebook等のICT機器の操作技術や情報（メディア）リテラシーの習得を図る。

◆報道関係者の皆様へのお願い

・取材を希望される場合は、10月21日（金）までに学校教育課担当（三時）まで御連絡ください。

・マスク着用、手指消毒、事前の検温等の感染症対策に御協力をお願いします。

・万が一、感染症陽性者及び感染の疑いがある者が発生した場合、濃厚接触者の早期発見や早期対策を講じるため、当日受付にて、お名前と連絡先を御提供くださいますようお願いいたします。なお、濃厚接触者への早期対策で、山口健康福祉センターへ相談・報告する可能性があることを申し添えます。（今回得た個人情報につきましては、個人情報保護法に基づき適正に取り扱います。）

5 出席者 山口市立宮野中学校1～3年生(最大25名)及び教員、YCAMスタッフ、秋田公立美術大学 准教授 萩原健一氏、他スタッフ

6 問い合わせ 山口市教育委員会事務局 学校教育課 TEL (083) 934-2863

【別紙】

【事業概要】

①宮野中学校では、令和4年8月から、生徒が1人1台のタブレット端末を活用してアニメーションを制作するプログラム「アニメーション壁画うご板※1」に挑戦してきました。

今回は失敗の状態が存在しない、いつでも改変可能なアニメーション制作手法「フレットアニメーション※2」を取り入れ、中学生が主体となって、1人1台のタブレット端末を活用した新しい壁画として文化祭で発表します。

さらに、壁画制作を通じて、タブレット端末1台と机1台さえあれば、どこでもフレットアニメーション制作が可能な教材キットも開発しました。今後、他の学校でもタブレット端末を活用した学習教材として導入が可能で、生徒がアニメーション原理を理解する能力の向上、より多様なメディア表現や応用方法を生み出すきっかけとして活用できます。1人1台のタブレット端末を活用した授業、使い方の提案、教育現場での新たな教育モデルとして全国に発信する取組です。ぜひご覧ください。

※1 「アニメーション壁画うご板」とは

中学生が「フレットアニメーション」の制作手法を活用し、1人1台のタブレット端末で制作するアニメーション壁画です。

教室内に設置する大型の壁一面にタブレット端末が並び、生徒が個々で作ったアニメーションが大きな一枚の絵になる全体作品を発表します。また、生徒一人ひとりが好きな素材やテーマで個性を活かしながら制作した作品も同時に発表します。制作の材料には、生徒が集めた身のまわりにある材料や使わなくなったもの、県内の企業から提供していただいた廃材などを使用し、資源リサイクルの観点も意識しながら作品制作に取り組みました。

※2 「フレットアニメーション」とは

失敗の状態がない、いつでも改変可能なアニメーションの制作手法です。1枚の平面上の区切られた部分を1人1台のタブレット端末に内蔵されたカメラが順番に抽出し、表示することで“うごき”を作り出します。

この制作手法は映像作家／研究者の萩原健一氏（秋田公立美術大学 准教授）が考案したもので、机に置いたものが瞬時にアニメーションとして反映されるシステム設計のため、リアルタイムにアニメーションが変容しつづけます。

いつでも改変可能なアニメーションなので、制作者である生徒は失敗を恐れず、絵の得手不得手やアニメーション作画の経験の有無に関わらず、誰しも気軽にアニメーション原理を学びながら制作に取り組むことができます。

【別紙】

②これまでの取組

(参加生徒は宮野中学校文化祭「アニメーション壁画班」1～3年生約20名)

- ・ 8月8日(月)「フレットアニメーションを体験しよう①」



- ・ 8月9日(火)「フレットアニメーションを体験しよう②」



- ・ 9月29日(木)「作品制作と資源リサイクルを考えよう」



- ・ (予定) 10月14日(金)～10月21日(金)「文化祭週間：作品制作」